



ウェブマガジンは 新時代のライオン誌です

ライオンズクラブ国際協会の公式機関誌であるライオン誌日本語版は1958年に創刊され、以来、日本国内の会員に親しまれてきました。2018年からは印刷版に加えて、インターネット上のライオン誌を発行しています。

それが「ライオン誌日本語版ウェブマガジン」です。

全国各地のメンバーが生き生きと奉仕活動に励む姿を記事と動画で伝える他、過去60年余りの印刷版バックナンバーの記事閲覧とキーワード検索など、デジタルの特性を生かしてライオンズ活動に役立つ情報をお届けしています。

ぜひ親しみを持ってライオン誌ウェブマガジンをご覧ください。

- ウェブマガジンは年12回・毎月1日に発行します
- 「奉仕活動」は各地のアクティビティを文章と動画で伝える取材記事。印刷版には短くまとめた記事を掲載します
- 投稿記事「活動報告」はクラブから寄せられたリポートを掲載。印刷版にはその中から一部を掲載します
- パソコンやタブレット、スマートフォンなどで手軽にアクセス出来ます
- メールニュースやLINEメッセージ（登録者宛）で更新情報をお届けします
- フェイスブック、ツイッターなどのSNSで広くライオンズの活動を発信します



※このページや、印刷版「奉仕活動」「ライオンズ・インフォメーション」の記事に掲載されているQRコードからウェブマガジンに接続することが出来ます

ライオン誌ウェブマガジン→<https://www.thelion-mag.jp/>

奉仕活動の事例やヒントが満載

ウェブマガジンでは全国各地のライオンズクラブが取り組むアクティビティの数々を紹介しています。活動の現場を取材し記事と動画でレポートする「奉仕活動」、クラブからの投稿を掲載する「活動報告」、LCIF交付金事業を紹介する「国際財団」など各ページの記事から、ライオンズクラブが地域をより良くするための活動はもちろん、国際的な支援にも貢献していることがよく分かるはずです。

ライオン誌サポーター（各地区MC委員長などに委嘱）のアンケートでは次のようなコメントが寄せられています。「各地のクラブが創意工夫をして活動している姿が頼もしく非常に参考になる。これからの奉仕活動の大きなヒントになる」

「コロナ禍で活動を自粛しているクラブもあるが、感染対策をしながらの奉仕活動の記事を読んで自クラブも負けずにがんばろうという気持ちになった」



「奉仕活動」「活動報告」欄はこの印刷版にもありますが、ウェブマガジンにはより多くの写真とより詳しい記事を掲載。「奉仕活動」では、クラブが活動に取り組んだ経緯や実施する上での苦労などを詳しく取材して豊富な写真と共に報じ、動画にはメンバーへのインタビューも盛り込んでいます。また、活動分野ごとに記事を絞り込んだり、アクティビティマップで活動を実施した場所を示した地図から記事を選んだりすることも出来ます。

会員増強やクラブPRのツールに、クラブ例会での話題作りに、そして地域のニーズに応える新たな奉仕のアイデア探しに、ウェブマガジンを活用してください。



クラブの日々の活動に ライオン誌ウェブマガジンを お役立ててください！

ライオンズクラブの活動を新会員候補者や地域の人へどのように説明するか、悩んだことはありませんか？ 例会でのあいさつやスピーチの話題に困った経験は？ 新規アクティビティ立ち上げがアイデア不足で難航したことはないでしょうか？ そんな時にぜひ活用してほしいのが、ライオン誌ウェブマガジンです。ライオン誌日本語版委員会では、多くのクラブ、メンバーの皆さんにウェブマガジンを活用してもらえぬことを切に願い、ここに具体的な活用方法を提案します。

バックナンバーの活用を

ウェブマガジンには、クラブ数・会員数のデータやライオン誌が実施したクラブ・アンケートの集計結果、過去60年余りのライオン誌のアーカイブなど豊富な資料も収蔵しています。「過去の記事」にある「ライオン誌電子版」では、1958年の創刊号から現在までのライオン誌の各号を年代別に掲載し、キーワード検索も出来ます。



一例として、「群馬県」と「太田」のキーワードで星野勝美編集長の所属する群馬県・太田ライオンズクラブの記事を検索してみましょう。62年12月号の新結成クラブ紹介欄にクラブ情報があり、その2年後の64年9月号にアクティビティの記事が載っています。太田ライオンズクラブの有志で編成されている飛行隊が、この年6月に発生した新潟地震の救援のためにセスナ機など2機に薬品100kgを積んで羽田空港から新潟空港へ空輸。新潟県庁民生部へ届けて大いに感謝されたというニュース記事です。当時のクラブ・メンバーには自家用機を所有するメンバーが複数人いて「空飛ぶライオン」の異名を取っていたとのこと。

このようにして、所属クラブの記事を検索してみたら、埋もれていた歴史や面白いエピソードを発掘出来るかもしれません。

もう一つ、「献血」のキーワードで検索してみたところ、61年12月号から2021年11・12月号までの記事1372件がヒット。「献血」や「青少年」など頻出するキーワードは、地名などを追加して複数のキーワードにしたり、期間を絞って検索すると求める情報にたどり着きやすくなります。

「ライオン誌例会」でIT化推進も

ライオン誌日本語版委員会では以前から、例会でライオン誌記事の感想を発表するスピーチを行ったり、記事を題材にしてディスカッションを行ったりする「ライオン誌例会」の開催を推奨してきました。

三重県・四日市みたきライオンズクラブでは2020年2月にライオン誌例会を開催。全員が前もって気になる記事や投稿、報告を読んで例会に臨んだそうです。当時PR委員長を務めていた森一生は、本誌への寄稿の中で次のように提言しています。

「ライオン誌を通じて各地のクラブの活動を知ることによって問題意識を持ったり、あいさつやスピーチのネタとしても活用出来るのではないかと考えます」「掲載されたクラブの活動をただまねるのではなく、記事を通してメンバーそれぞれが考えたことを出し合い、議論して行動に移すのが大切ではないでしょうか。それが、これからのライオンズに必要なことだと思います」(20年7・8月号「獅子吼」掲載)

同クラブのライオン誌例会は印刷版を活用して行われましたが、ウェブマガジンはスマートフォンにも対応しているので、手元に冊子がなくても、各メンバーのスマホを使って記事を共有出来ます。

また、次ページでご紹介するように、ウェブマガジンに簡単にアクセスするための情報はクラブへのEメールやLINE、SNSを通じて発信しています。コロナ禍の中、LINEやZoomなどの活用でクラブ・メンバーのつながりを維持出来たというクラブがあった一方で、対応出来ないメンバーがいるのでIT化を進めたくても出来なかったというクラブもありました。そんなクラブは、例会の出席者全員でスマホを使ってウェブマガジンを閲覧してみてもはどうでしょうか？ QRコードを使えば、ウェブマガジンにアクセスするのも、LINEの友だち登録も簡単。使い方が分からないメンバーがいたら、その場で他のメンバーが手を貸してあげることも出来ます。

ライオン誌例会の開催が、クラブのIT化を進める第一歩になるかもしれません。



※このQRコードからウェブマガジンに接続することが出来ます

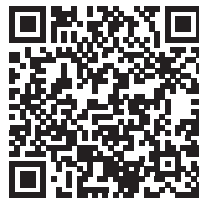
ライオン誌ウェブマガジン

→<https://www.thelion-mag.jp/>

LINE公式アカウントの登録を

ライオン誌LINE公式アカウントを友だち登録すると、毎月のウェブマガジンの更新情報や、活動報告投稿のご案内のお知らせなどライオン誌に関する情報が配信されます。下の手順を参考にぜひご登録ください。

登録用QRコード



ID: 433iibwj

QRコードで簡単に友だち登録

1 長押しする



3 QRコードに合わせる

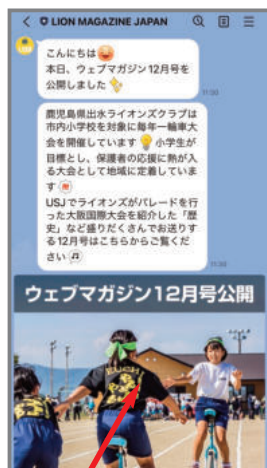


2 「QRコードリーダー」を押す

4 「追加」を押す



★ ライオン誌からのお知らせ



画像をタップするとウェブマガジンを表示

ウェブマガジンに活動報告を投稿

「活動報告」ではクラブからの投稿を募集しています。クラブが実施したアクティビティのレポート原稿と写真を投稿フォームから送信してください。詳しくは、ウェブマガジン「投稿」にある投稿規定を確認してください。



Eメール、SNSで情報発信

■ ライオン誌メールニュース (Eメール)

毎月1日のウェブマガジン発行後、記事の内容をお知らせする「ライオン誌メールニュース」を各ライオンズクラブへ送信し、会員の皆さんへの転送をお願いしています。

■ 各種SNS

ライオン誌はYouTube、Twitter、Facebook、Instagramを通じて情報発信をしています。ご利用中のサービスで、ぜひライオン誌のフォロー、登録をお願いします。

